

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



貴重な収穫を鳥に食べられないように、かろうじてわずかに捻った畑をかかしが守る (撮影: 橋本紘二)

### Contents

- 環境フェスタくにたち報告 ..... P 1
- 100年に1度の旱魃 ..... P 3
- 大同市北部自然林の2.3の樹種 ..... P 5
- 東北電力総連・サントリー労組ツアー ..... P 6

#### 事務所移転のお知らせ

12月12日、事務所を移転します。いまの事務所から歩いて5分  
ちょっと、大阪港郵便局の近くで、駅からは少し遠くなりますが、明るく、広くなります。  
どうぞお手伝いに来てください!

新住所: 〒552-0012 大阪市港区市岡1丁目4-24 住宅情報ビル501号  
TEL. 06-6576-6181 FAX. 06-6576-6182 (12月13日以降)

2001.11

82

## 大阪写真展『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』報告

10月26日から11月1日まで、JR大阪駅セルヴィスギャラリーで、橋本紘二さんの写真展「中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと」が開催されました。ボランティアスタッフも参加して、盛況のうちに終えることができました。

今回は会場がギャラリーとあって、入場者数は駅の自由通路で開催した京都、名古屋にはおよびませんでした。静かで落ち着いた環境でじっくりと時間をかけて作品に見入っておられる方が多くみられました。普段は静かなギャラリーですが、この写真展のにぎわ

いは異例だったそうです。7日間の総入場者数は約4,000人、写真集18冊、絵ハガキ約200セットを販売しました。

ご協力いただいたみなさん、ご来場くださったみなさん、どうもありがとうございました。

写真集『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』好評発売中！

写真・文 = 橋本紘二 / 東方出版 / A4版・208ページ / 6,000円 + 税  
緑の地球ネットワークでも扱っています。特別価格（送料込み）6,000円。お申し込みはGEN事務所まで。

## 「友誼獎」を受賞

大同での緑化協力は満10年を迎えます。その成果は中国でも注目されるようになり、このたび中国政府から「友誼獎」をいただきました。9月29日に授賞式があり、17か国50名の人といっしょに、銭其仁副総理から徽章その他を受け、翌日は朱鎔基総理の会見がありました。

無名の小さなNGOが受賞したのは、現地のプロジェクトが掛け値なしに評価に値するということでしょう。中華全国青年連合会の推薦を受けて実現しました。

関東ランチから

## 環境フェスタくにたち報告

10月13日、「環境フェスタくにたち」に参加して、黄土高原に関する橋本紘二さんの写真パネルなどを使ったミニ写真展を開きました。

当日は秋らしい晴天に恵まれ、会場は子どもからお年寄りまであらゆる世代でにぎわいました。ところが関東ランチのテントはといえば、会場のにぎわいに比べると寂しくなるような入りの少なさで、成功というには幾分物足りない雰囲気でした。関東ランチは写真展示の他、黄土高原絵はがき、大同の切り絵などの販売や、人形劇「虎の威を借る狐」、黄土高原史劇（このふたつはほとんどやれなかった）などをやりました。

「1人でも多くの人にパネルを通して黄土高原を知ってもらおう」という動機ではじめた写真展でしたが、写真や販売商品の配置の工夫不足などから、関心の薄い人をテントに引き付けるだけの魅力を作り出すことができなかったようです。もっとも、会場には、サ

ンマの焼ける匂いなどを出す食べ物屋テント、フリーマーケットなどがあり、食欲、安物欲に勝る知識欲はありえないためという観測もありましたが。

今回得たノウハウを踏み台に来年も「環境フェスタくにたち」に参加しようという声もあがっています。関東ランチではこれからも「より多くの人に知ってもらおう」ために、パネル展示などを通して一般市民へのアピール活動をしていこうという意気込みです。

なお、7枚だけのパネルですが、インパクトのある写真と黄土高原に関する簡単な解説文もついているので、展示にはとても良いと思います。パネルを活用していただける方の一報をお待ちしております。（関東ランチ一同）

## 年末カンパのお願い

同時多発テロ、空爆、炭疽菌、狂牛病、最悪の失業率……。こんな世情の昨今ですが、年末カンパのお願いです。

今年度は、不景気のためか緑化協力プロジェクトの資金あつめに苦労しています。みなさまのご支援をお願いいたします。

なお、発送作業の都合上、一律に郵便振替用紙を同封していますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。ご了承ください。

## 助成金・寄付金

黄土高原の緑化協力事業に関連して、以下の助成が決まりました。

国土緑化推進機構・緑の募金

3,000,000円

日中民間緑化協力委員会資金助成金

8,400,000円

国際農林業協力協会

2,800,000円（専門家派遣費用）

外務省草の根無償資金協力

93,254USドル

また、京大ユニセフクラブからは56,700円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

## 絵はがき『中国・黄土高原』 ご利用ください

クリスマスカード、年賀状、寒中見舞いに、ぜひご利用ください。

絵はがき『中国・黄土高原』（1組8枚入り・カラー）

『春』『夏』（郵便番号枠5ケタ）  
『秋・冬』『緑化』4種類各500円/組

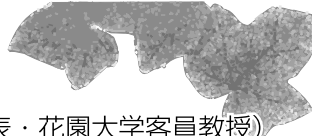
送料別途。1組 = 90円、2組 = 160円、3組 = 200円、4組 = 240円。5組以上の場合は送料サービス。10組以上の場合は20%引きになります。

ご注文はGEN事務所まで。

☆☆☆☆☆☆現在発売中の『現代農業』12月号（農文協）に、橋本紘二さんの写真が載っています。今秋のきびしい大同のようすを伝えるものです。



# 植物を育てる (14)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

## ●野生樹木の種子採取と貯蔵

杉や桧の造林と違って自然林の復元のための育苗は、種子の採取が大変な作業であることを前号に記した。今回はその貯蔵方法について述べよう。まず、乾果、液果と殻斗果の3グループに大別する。

## ●乾果の類

多くのマメ科、マツ科、アオイ科、カエデ科などで、成熟した種子を日陰でよく乾燥し、紙袋に入れて、低温、暗黒に近い条件の場所に置く。注意することは、虫の存在である。マメ科では、コクゾウムシが種子に卵を生みつけていることが意外に多い。一昼夜水に浸し、浮いたものを捨てる。虫がいることが確認できたら燻蒸殺虫せねばならない。密封できる容器に種子を入れ、二硫化炭素、クロールピクリンなどで一昼夜燻蒸する。種子を蒔くのは翌春である。硬実種子は水浸してふく

らんだものだけを蒔き、他の種子は硫酸か熱湯で処理してから蒔く。

## ●殻斗果の類

クリ、ツバキ、シイ、カシの類で、いわゆるドングリ類である。これらは乾燥すると死ぬから、採集後速やかに水洗し、すぐに苗畑に取り蒔きするか、春まで貯蔵する。木箱に砂と種子を混ぜて入れ、箱のまま土中に埋める。翌春取り出してフルイにかけて種子をより出して蒔く。二重のビニール袋に入れて貯蔵することもできるが、黴が生えたりするから、ときどき水洗してやる必要がある。5 前後の冷蔵庫に蓄えるのが安全である。

この類の種子はでんぷん質のものが多く、ネズミなどの食害が多いから蒔いた直後は十分に注意する必要がある。

## ●液果の類

種子の周りに果肉のあるもので、し

ばらく後熟させてから果肉を取り除き、取り蒔きするか、蓄える。大きい種子は殻斗果と同様でよいが、小さい種子はビニール袋に入れて乾燥を防ぎ、低温(2~10 )で貯蔵する。この類は休眠種子が多く、低温で2~3か月置くと休眠が破れる種類が多い。いずれにしても乾燥すると死んでしまうから保湿に留意せねばならない。

モチノキ科の植物は後熟種子で、翌年には発芽しない種類が多いから注意する必要がある。翌々年に発芽するから取り蒔きの場合には除草の時に種子を浮き上がらせないように注意せねばならない。

## ●前処理

硬実種子、休眠種子は蒔く前に発芽促進処理が必要であるが、これについては昨年春季に記述したので「緑の地球」72号をご覧ください。

## 黄河紀行～暮らしを支える大河のいま～

川島 和義 (GEN世話人)

かつて4大文明と言われた古代文明は、すべて大河のほとりに栄えた。インドのガンジス川、エジプトのナイル川、メソポタミアのチグリス川とユーフラテス川、そして中国の黄河である。

水は、生命には欠くことができない。地表に血管のように張り巡らされ、絶えず水を供給してくれる河川は、海から陸に上がった私たち生物にとってはとてもありがたいものだ。

実際、かつての黄河は、大陸の中を網目のように流れていたようだ。時として氾濫し、そのたびに流れを変えてきた黄河は、土地を豊かにし、作物を作る人びとの暮らしを支えてきた。この黄河の水が激減しているという。

1950年代には山東省と河南省の境で年間450億トン流れていた黄河の水が、1990年代には240億トンに減少した。1997年には226日の断流が起こってい

る。つまり、1年のうち7か月半は黄河の水が涸れていたわけだから、下流の水不足は深刻だ。上流での降水量の減少と農業利水(灌漑)の増加が原因だそうだ。

この黄河の様子を、下流からさかのぼって調査しているGEN顧問の小川房人さんに中間報告をしていただいた。黄河と人びとの暮らしとの関わりなど、多くのスライドを使ったわかりやすい報告だった。この報告の数日後、小川さんはさらに中流の調査の旅に出発された。これからも、続報をいただけることになっている。乞う御期待!

## ワンワールド・フェス参加報告

10月13日、14日の2日間、大阪国際交流センターでワン・ワールド・フェスティバルが開かれ、GENもNGO活動紹介に参加しました。関西の国際協

## GREENなんでも勉強会

### 黄河紀行

その2・洛陽から蘭州まで

『黄河紀行』第1回のように左記にご紹介しましたが、第2回のご案内です。第2回は洛陽から蘭州までの黄河中流域をカバーします。

日時：2002年1月24日(木)18時30分～20時30分

場所：大阪市立弁天町市民学習センター(JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅下車すぐ)

講師：小川房人さん(GEN顧問、元大阪市立大学付属植物園園長)

参加費：700円

問合せ・申込み：GEN事務所まで

力団体が集まるこのイベントには、国際協力やボランティアに関心のある人がたくさん訪れます。GENもボランティアスタッフの手助けをえて、黄土高原の現状をPRできました。(東川)

# 100年に1度の早魘

## 降水パターンの変化が植物を直撃

高見 邦雄 (GEN事務局長)

2001年の大同はたいへんな早魘でした。とくに北部の黄土丘陵が深刻でした。大同県の月別降水量を、暦年平均と比べてみましょう。

	2001年	暦年平均
1月	2.8	1.4 (mm)
2月	2.9	3.3
3月	0.1	10.6
4月	9.7	18.8
5月	4.6	33.9
6月	26.5	60.8
7月	61.1	108.1
8月	61.1	79.4
9月	29.0	50.4
小計	197.8	366.7

10月以降の数値は未入手ですが、暦年平均は10～12月の3か月で29.8mmです。

春に雨の少ないのはいつものことですが、今年は5月になっても、6月になっても降りませんでした。種を蒔くのを諦めて、放置された畑が山や丘陵を中心に広範囲に広がっていました。耕地全体の3分の1になるそうです。

種を蒔いても、まばらにしか生えなかったり、育たなかった畑も少なくありません。トウモロコシはヒザの高さで穂をだし、実は入っていません。ジャガイモはビー玉がふつうで、最大で

ピンポン玉の大きさ、それが1株に2つしか着いていません。

灌漑が可能な一部の畑を除いて、壊滅状態といっているでしょう。99年が「建国以来の早魘」で、大同の耕地35万haの57%にあたる20万haで収穫がゼロ、全体では平年に比べ82%減でしたが、今年はそれよりずっと悪そうです。70歳以上の老人が、「こんな年は知らない」と言っていました。

さて、植林にたいする影響です。今年植えたものも、大同県の「カササギの森」や采涼山のプロジェクトは、75%以上の活着率をキープしました。国と省の林業局から視察に訪れた人が、「これほどの早魘のなかで、活着しているのは信じがたい」と語ったほどです。その反面、左雲県や新栄区では20%に満たないところもあります。原因の1つは、大同県では前年の夏に整地作業をし、その後に降る雨を土のなかに蓄えていることが大きいようです。雨期整地と呼んでいます。

昨年植えたものなどは、根を張っているためでしょう、マツもアンズもあまり影響を受けていません。アンズはちゃんと実を着けましたし、マツもこの春はちゃんと伸びています。

しかし、山の木のなかで、カラマツ



ビー玉大のジャガイモ (写真：橋本紘二)

やシラカバは乾燥のために葉を落とし、雨が降り出してから、二度芽をだしました。乾燥に強いはずのヤナギハグミ(沙棘)も枯れたり、落葉したりしていました。草モイネ科などに枯れたものが多くありました。

乾燥に強い植物には、横に広く根を張るものと、地下深く根を伸ばすものがあるようで、前者のタイプが今年はダウンしたようです。ヤナギハグミと並んで、よく使われるムレスズメ(樺条、マメ科灌木)は後者なので、この早魘にもビクともしていません。

これから厳寒の冬に向かいますが、政府の救済を含めて人間はなんとかやるだろうけど、家畜に冬を越えさせられるか心配だという声をあちこちで聞きました。いちばん草の多い夏さえ、エサに不自由していたのですから。

# カササギの森にご協力ください!

今年の春から建設をはじめた「カササギの森」。このあたりは大同でももっとも厳しい早魘でした。

敷地の中心の谷底には、いつもの年は四季を通じて水が流れているのに、今年は涸れてしまいました。飲み水を求めて、アナグマ2頭が貯水槽に落ち込み、死んでしまったほどです。周囲の丘陵はカラカラに乾ききりました。

でも、春と夏に植えたマツその他は、100%に近い活着率です。力を尽くして管理し、枯れたものはすぐさま補植したためです。それでも、来春のため

の整地作業は、土が乾いて硬いため、遅れていました。ところが8月後半に雨が降ったとたん、ものすごい勢いで進捗しました。

ここの作業は、陽高県致富山で長くマツの造林を手がけてきた農民がやっています。25人のチームを組み、敷地内の廃屋に住み込んで、朝星夜星の毎日です。石混じりで土が硬く、私なんかでは刃が立たないのに、土の裂け目が見えるかのように、グイグイとスコップで掘り進めます。早魘で農業収入がなかったぶんも、ここで取り返さな

いとイケないのです。

カササギの森は、みなさんの資金で建設します。1haあたりマツ3300本とヤナギハグミもしくはムレスズメを同数植えて、5万円です(管理費を含む)。ポプラ・シンジュなどは800本です。

昨年9月にはじめてから現在までに、56人・団体から84ヘクタール分のご協力をいただきました。ご協力いただいた方には、協力者証をお送りしています。また、現地の記念プレートにお名前を刻んで残すほか、5年間、成育状況を写真で報告します。みなさんのご協力をお願いいたします。



## 大同市北部自然林の2、3の樹種

相馬 昭男 (林野庁OB)

半年ぶりに三浦半島の自宅におちついて、1か月になる。今朝は日課のジョギングのコースを変えて、鎌倉に向かうハイキングコースを歩いてみる。江戸時代、江戸から金沢八景にぬける道であったという山道である。蔽いかぶさった樹々の落葉を踏みしめていくと、足もとから突然山鳩が飛びだして驚かせる。この稜線の両側200mばかりは、住宅地の間を通る暖帯・温帯の天然林で、わずかに40年生ぐらいのスギ、ヒノキの人工林を混えている。早朝のこととて、野鳥のさえずりがかましい。けたたましく鳴くヒヨドリ、この辺にはもういなくなったと思っていたコジュケイが特徴ある声をあげる。何種類かのカラ類もいるようだ。

こんな晩秋の朝のひとつき、7、8月の2度にわたって訪れた大同市北部の自然林のすがたを想い起した。ここは大同県・陽高県・広霊県・渾源県の4県がまたがる自然林である。車をおりて直ぐ登り始めるが、この歩道は村人達が山に入る時使った道で、両側からトゲのあるサージ(ヤナギハグミ)などが道をおおい、道といえるものではない。この附近は、標高1,800m前後、傾斜20~30度の稜線に近い北西斜面である。この春、南庄村の植物園予定地の自然林をみたが、こちらの樹木の種類は遙かに豊富で、上・下層木を含めて40種はあると思った。その中で特に記憶に残ったナナカマド、ミズキを挙げてみたい。



相馬昭男さん(春のツアーにて)

5年前、初めて中国に来たが、北京人は「北京秋天」といって北京の秋の素晴らしさを自慢する。素晴らしい秋の代表のひとつは紅葉だと思っただが、私には北京の紅葉が素晴らしいとは到底思えないのである。青森、北海道育ちの私にとって、十和田奥入瀬渓流の紅葉、大雪山層雲峡の紅葉と比べれば、月とすっぽん程の違いがあるように思えてならない。なにせ、紅葉化する樹木が圧倒的に少ないのである。カエデ、ウルシ、ツツジ類が少ない、そしてナナカマドがない。特にナナカマドは紅葉時期が終わったあとでも、なお真赤な果実が我々の目を楽しませてくれるのである。

北海道の旭川は、18年間も暮らしたところだが、ナナカマドは「旭川の木」として有名である。淡赤から深紅にいたるまで濃淡各様の色の変化は、赤橙色の実とともに晩秋、初冬の青空によく映えていた。和名の由来は、7回カマドの中に入れても燃えないということから、この名がつけられたという。

ミズキは、日本では山地特に湿ったところで普通にみられる樹木で、細工がしやすいということから、コケシやおもちゃなどの木地に使われる。樹形に特徴がある、大きな枝を水平に張り出して、そこから分れる小枝は様に垂直に天空に伸びている。日本各地では正月や祭礼などの時、この枝にまゆ玉などの飾りを下げて、神棚や軒先に飾る習慣があった。私などは職業柄、雪上で樹木調査をすることが多かったが、この特徴ある枝振りを見るだけで、葉っぱを見ることなしにミズキと記帳したものである。

アメリカの国花は、このミズキの一種「アメリカハナミズキ」で東京周辺では庭園樹、街路樹として多くみられる。ミズ



大同の自然林でみられたナナカマド

キは小枝の先に白い花を密生し、遠くから眺めると枝全体が白く見える。春先小枝を折ると樹液がしたたるため水木といわれるのである。

このほか草本としては、コバイケイソウ、マイヅルソウを見つけたが、いずれも東北、北海道の林内に普通に見られる植物で、コバイケイソウは一寸湿った場所にあるが、ここでも同様である。この2種も多分、中国では広く分布している筈だが、今まで気がつかなかったのは不思議なくらいである。コバイケイソウは北海道では、根茎にアルカロイドを含んでいるとかで殺虫剤に使っていたと思う。

この自然林は、自動車道をおりて直ぐに足を踏み入れる場所にあり、ぜひ専門家による植生調査をしてほしい所である。既に調査の行われている霊丘県の自然林のデータとあわせて検討すれば、山西省北部黄土高原の潜在植生が判ると思う。霊丘県に建設中の植物園で既に日本からの樹木種子を含め70数種の播種、育苗をしたときいているが、今回発見されたナナカマド、ミズキも追加してみたいものである。

東北電力総連緑の協力隊「記念特別隊」

## 日本人（未来形）から地球人（現在進行形）へ！

澤栗 興 男（東北電力労働組合新潟支部）

9月11日から18日まで、東北電力総連のメンバー26人が「記念特別隊」として内蒙古恩格貝、大同を訪問。大同には2日間滞在し、植樹活動にとりくみました。

高見事務局長の言葉に「日本では温暖化を未来形として話すが大同の農村では現在進行形なのですよ」との一言。

実際砂漠化、地球温暖化を肌で感じこの言葉の重さを知った。

黄土高原の年間降水量は約400mm。



「う～ん、かたい！」「もうちょっとこっちだよ」

植物が芽吹く春に雨は少なく、夏の短い間に集中する。そして夏に集中して降る雨が、有機物を含む表土を押し流して土壌を劣化させ、砂漠化を招く。

1990年代に入って、年間降水量は減っていないが、雨の降り方が変わり、いままで少なかった春の雨がより少なくなり、農作物には無用の夏の終わりから秋の雨が増えている。原因として気になるのは、地球温暖化の影響ではないかとのこと。

砂漠化については、黄土高原の農民達が人口増加に対応するため、耕作面積の拡大と放牧により“水土流失”を

激化させ土壌劣化を招いたものであるが、地球温暖化については、豊かさを求め続け日々大量のエネルギー消費をしている私たちの生活が、ぎりぎりのエネルギーで生活し、原因とはもっとも遠い存在である黄土高原の農民に最も早く影響をあたえていることとなる。この話を聞くと、緑の協力隊は「ボランティア」と「罪滅ぼし」のふたつを兼ねそなえているように感じた。

たぶん言葉ではイメージできない部分が多くあると思う。

だから私は緑の協力隊に参加したのだ。

ぜひ、今後も多くの方に参加していただき、言葉ではイメージできない部分を実際に肌で感じて欲しいと思う。

そうして、1人でも多くの方が日本人（未来形）から地球人（現在進行形）へと変わらなければと感じてほしい。

## 作業はつづく……子どもたちの笑顔とともに

中国黄土高原ワーキングセミナーの感想

寺内 徹（サントリー労働組合）

9月8日から15日、サントリー・サントリーフーズ労働組合のメンバー27人が大同、上海を訪れ、大同ではホームステイも体験しました。

9月8日に関西空港を出発し、上海で飛行機を乗りつぎ北京に入り、夜行の寝台列車にゆられ、われわれサントリー・サントリーフーズ労働組合の一行が大同に着いたのは翌朝の9日であった。ここでようやく高見さんやスタッフの方々と会えたわけだが、これからどんな作業や体験が待っているのかと実は少し不安でもあった。

朝食をとった後バスに乗りこむ。道路は都会のアスファルトから舗装されていない田舎道へと変わり、バスにゆられながら高見さんの話がはじまった。大同の気候や水土流失について、そして約10年前から現在にいたるまでの緑化活動の経緯を聞いた。

到着後、早速地元の方々や子どもたちとの記念植樹にとりかかる。最初は観光気分がぬけないのかカメラを片手に木を植える。いい加減な作業に思われてもしかたがない。スタッフの方々に幾度となく注意され、やり直してい

るうちに徐々にコツがわかってきた。そしてバスの中での高見さんの話を思い出し、この作業の重さをみんなが体感したようだ。

翌日も翌々日も作業は続く。総勢27名のメンバーの顔が日に日に変わっていくように感じたのは私だけであろうか。少しばかりワイルドに見える日焼けした顔が頼もしい。一方私はといえば日頃の運動不足のせいもあり、少しの傾斜や階段でも息があがってしまう。なんとも情けない話である。

作業の後、浸食された谷を見た。写真で見たよりも、話に聞くよりもはるかに厳しい現実を目の当たりにする。自然の力を前にして私たちができることはちっぽけなことだけかもしれないが、せめて植樹した苗がしっかりと根付いてくれることを心から望む。

この4日間の作業で植樹した苗の本数は約1,000本になった。その数を聞いた時、メンバーの顔が自然とほころ

び、達成感に満ちあふれていたように感じた。しかしこれは私たちだけの力で成しとげたものではない。植樹作業をする時も、万里の長城に登る時も、いつもそばに子どもたちがいた。言葉が通じないにもかかわらず一瞬懸命助けてくれる。そしてそこには必ず笑顔があった。この大地に根をおろす子どもたち……植樹した木々とともにたくましく成長してほしいと願った。

9月12日の夜、再び夜行列車に乗って大同を後にした。ここでお別れした高見さんをはじめ大同青年連合会のみなさん、地元の農家のみなさん、そして子どもたち本当にありがとうございました。私たちは来年もこの黄土高原にもどってきます。心に残るものを増やすために！



お世話になった家族のみんなと記念撮影

黄土高原史話 〈4〉

ところで、「大同湖」はその後……

谷口 義介 (摂南大学教授)

北京西駅で「二鍋頭」を1瓶、7元(100円ほど)で買い、大同行き夜行に乗り込むと、同じコンパートメントの同行者たちは、すぐ旧知の間柄。56度の北京焼酎は、効果てきめんです。翌朝、酔眼をこすりながら駅頭に降り立ちますが、昼の植樹作業は各自それぞれ人並みに。夜は汾酒。杜牧の詩で有名な「杏花村」の銘酒ですから、飲まないわけにはいきません。

そんなオジサンたちの1人から、この夏、暑中見舞いあり。

「中国のことわざに“桑田変じて海と成る”とあるが、10万年前、大同盆地が海だったとは。で、その後どうなった？」

天にのぼったか、地にもぐったか。蒸発もしたでしょうし、黄土に埋もれたことも事実。しかし、川を通して海に流れ込んだというのが真相でしょう。

五台山の南に東冶鎮盆地がありますが、そこから平巻貝・ものあら貝の化石が出ていて、太古は湖であったことの何よりの証拠。それが盆地になったのは、五台山の西側をぐるっと半周し

て東南行する 沱河によって、海に流失したためです。

同じことは、前々回で述べた「古汾渭水域」についても言えるでしょう。この巨大な三日月湖は、上から入って右下方へ抜ける黄河の流れで消滅、そのあと汾河と渭河になりました。『水経注』(北魏時代)によると、汾河の流域には後代まで中・小の湖沼がその痕跡を留めています。

「大同湖」の場合は、北東を向いて流れる桑乾河によって干上がりました。

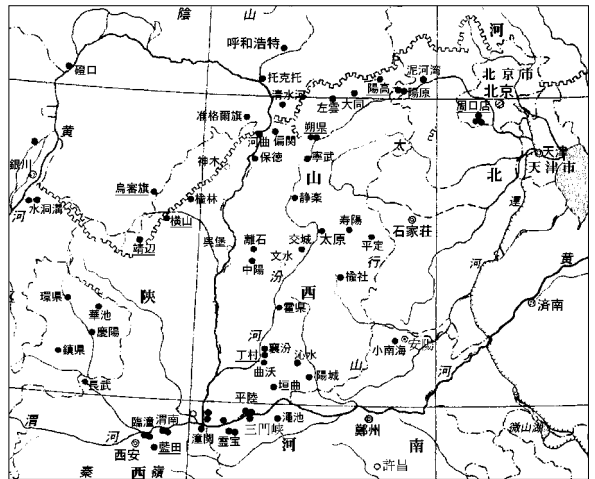
10万年前、その湖の東岸に許家窯人が住んでいたわけですが、C-14年代測定法によれば3万年前、湖の南西側(今の桑乾河の上流)には朔県峙峪遺跡が存在。人類の後頭骨の化石1点と石器1万5000点余が出土しています。野馬120個体分、野生ロバ88個体分も。これらが主な狩猟対象でした。峙峪人の活動舞台は、大部

分が山地近くの広い草原地帯で、灌木も多少まじっていた、と推定されています。

その他、大同盆地では同じころ、北(岸)に左雲・大同、東(岸)に陽原などの旧石器時代の遺跡が点在(図)。以上によって見ると、「大同湖」は後の桑乾河の流域まで狭まった感じです。

そして次の新石器時代になると、桑乾河の河岸で懷仁県吉家庄、左岸10km離れた大同県水頭の両遺跡(5000年前)が成立していますから、この頃までに「大同湖」は消滅したのかもしれない。

以上、遅ればせながらご返答まで。 恕々頓首。



2002 春の黄土高原ワーキングツアー予告

来春のワーキングツアーの日程が決まりました。いつもより少し時期が早いのでまだ寒いかもしれませんが、大同市最南部の靈丘自然植物園を中心に活動します。黄土高原の村人といっし



環境林センターでの食事ツアーの楽しみのひとつ

よに木を植えましょう!

日程: 2002年3月24日(日)~31日

(日)

費用: 一般=17万円、学生=16万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ピザ取得手数料、GEN年会費ふくむ)

中国国際航空利用 関西国際空港発着 成田空港発着 便利用の場合、2万円(航空運賃の差額)高くなります。

定員: 30人

申込み締切り: 2月24日(定員に達し次第締め切ります)

【スケジュール案】

- 3月24日 午後出発。夕刻北京着。夜行列車で大同へ。
- 25日 朝大同着。三嶺村、懸空寺をへて靈丘県へ。
- 26日 靈丘自然植物園で活動。
- 27日 小学校付属果樹園で作業。農家でホームステイ。
- 28日 大同県“カササギの森”で作業。
- 29日 雲崗の石窟、万人坑見学。地球環境林センターで活動。夜行列車で北京へ。
- 30日 朝北京着。終日、北京観光(自由行動可) 北京泊。
- 31日 朝北京発。午後帰着。



### 大阪環境ネット 『環境を学ぼう』

日時：12月9日（日）10時～16時  
 場所：大阪市産業創造館（大阪市中央区本町1-4-5、TEL.06-6264-9888）  
 参加費：1,000円  
 主催・問合せ・申込み：大阪NPOセンター・大阪環境ネット（TEL.06-6361-5307 FAX.06-6314-9486）

- 【第1部】 10時～11時30分  
「買い物を変える・社会を変える」  
秋本育生氏（環境市民ネット・コーディネーター）
- 【第2部】 12時30分～14時  
「廃棄物処理の最前線」  
宮南啓氏（大阪府立大学名誉教授）
- 【第3部】 14時～15時10分  
「わが国のエネルギー事情と省エネルギー施策」  
竹内和彦氏（（財）省エネルギーセンター）
- 【第4部】 15時10分～16時  
「省エネ実験教室」阪野喬氏ほか（特活）大阪環境カウンセラー協会

### 市民が進める温暖化防止 2001

気候ネットワーク通信によると、南

太平洋の島国ツバルでは、来年から国を挙げて移住計画を実行に移すそうです。近い将来、国土が海面下に沈む国がある。地球温暖化の現実です。

日程：12月15日（土）16日（日）  
 場所：池坊学園（京都市下京区。地下鉄烏丸線「四条」駅、阪急京都線「烏丸」駅徒歩5分）  
 参加費（2日分）：1,500円（気候ネットワーク会員1,000円）  
 15日（土）

【分科会】 やればできる！ 地域の温暖化対策 / 進行する日本温暖化 / 温暖化を防止する税財政...等を予定

【関連企画（京都市との共催）】  
 ・市民講演会「京町家暮らしに教わる21世紀の京都版エコライフ」  
 講師・麻生圭子氏（エッセイスト）  
 ・ワークショップ「温暖化入門とエコライフ」  
 16日（日）

【全体シンポジウム】  
 テーマ「温暖化防止～京都議定書と市民・地域の役割～」  
 原沢英夫氏（国立環境研究所）の報告や討論など。

主催・問合せ：気候ネットワーク  
 (TEL. 075-254-1011 FAX. 075-254-1012 e-mail : kikonet@jca.apc.org URL <http://www.jca.apc.org/kikonet>)

### ポンカンをどうぞ

今年もポンカンの季節になりました。おくりものにも好評です。

ポンカン（低農薬・有機栽培）

A	3L/2L	5kg	化粧箱	4,000円
B	"	"	普通箱	3,700円
C	"	3kg	化粧箱	2,600円
D	L	5kg	"	3,500円
E	"	"	普通箱	3,200円

出荷：12月ごろ～来年2月

送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）。

お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-7411 高知県安芸郡東洋町甲浦  
 TEL/FAX.0887-29-2500

売上の一部をご寄付いただいているので、ご注文の際、「GENの紹介」とひとこと添えてください。

### 編集後記

8年近くお世話になってきたプリンター。最近調子が変わりだね、と言いながらだましだまし使っていましたが、とうとうHDがクラッシュ。すでに生産中止で、プリンター本体はまだ使えるのにもったいないけれど買い替えるしかありません。新しいプリンターはいままでのフォントがなくて悲しい……。別売りHDは高いし……。 （東川）